

飼育員は見たべあ！

のほりべつ
クマ牧場通信
4号

2017年
10月1日

発行

のほりべつ
クマ牧場
動物課

子グマのハンティングタイム

狩りの刻だの

ニジマスの生簀にいざ、出陣

のほりべつクマ牧場では9月9日～10月9日の土日祝日の日程で「子グマのハンティングタイム」を開催しています。内容は、子グマ牧場に期間限定で設置された生簀に生きたニジマスを放ち、子グ



生簀に放たれたニジマスをゲット
9月9日、コテツ



マたちが捕まえるというものです。9月2日・3日で予行練習を行いました、それが彼らの初陣となりました。最初は放流されたニジマスに気づくことができず、飼育員が生簀の中に魚がいるということをお知らせするもなかなか伝わりません。その後、魚影に気づいたコテツが先手を取り、水の中へダイブします。そして、ガラス越しにニジマスを発見したダイチは遅れながらも、ニジマスハンティングに参戦していききました。

初めて生きた魚を見る子グマたちは、恐る恐るニジマスへ手を伸ばすも、すぐに逃げられてしまい、捕まえることが難しそうです。見かねた飼育員が水位を減らすと、見事コテツが1匹のニジマスを捕

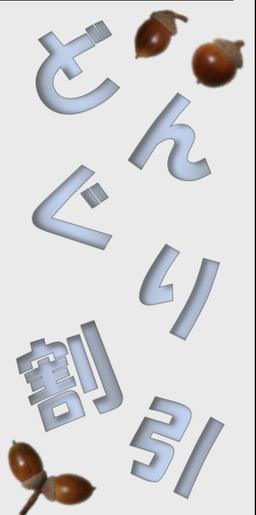
えることに成功しました。コテツに続いてダイチもニジマスをゲットします。食べるときは生簀から出て、獲物がとられない安全な陸地へ移動をしていました。両者とも頭からかぶりついていましたが、観察をしていると食べることでより、捕まえることのほうが楽しそうに見えました。動くものを追いかけるというクマの本能が働いているのかもしれない。

ハンティングを続けていると動きに性格が出ていくことに気がつきました。血気盛んなコテツはニジマスに対して序盤から猪突猛進な姿勢を見せるのに比べ、甘えん坊のダイチはコテツよりも積極性で一步劣るようなようでした。

そして回を重ねるごとに段々と技術も上達していききました。ぎこちない手つきは大人顔負けの手捌きへと成長していき、捕獲にかかる時間も減少していききました。回ごとに違った動きを見せてくれる2頭のハンティングタイムを、その目でとくとごらんあれ！



水中を探るときは、耳を水の中に入れない
= 9月9日、コテツ



あなたのとんがりが大活躍！

季節も移り変わり、実りの秋となりました。のほりべつクマ牧場では、毎年この季節になると「どんがり割引」を行います。

一体、集まったどんぐりはどうなっているのでしょうか。実は、すべてクマとリスのごはんになっています。クマたちにとってどんぐりは、秋の大事な食糧なのです。お昼ごはんの時間帯に運がよければ、どんぐりを食べている子グマやリスが観察できるかもしれません。

今年10月14日～11月30日の日程で開催します。たくさんのご参加をお待ちしています！詳しくは公式ホームページまで。



どんぐりの殻を割って器用に食べている
9月22日、写真上段子グマのコテツ、下段エゾリスのタイヨウ

